

令和6年度 第1回 桐生市総合教育会議 議事録

1. 日 時 令和6年11月7日(木) 午後3時30分～4時14分

2. 場 所 桐生市役所 本館3階 特別会議室

3. 出席者

【構成員】 桐生市長 荒木 恵司

桐生市教育委員会

教育長 小林 一弘

教育長職務代理者 板橋 英之

委員 山野 玲子

委員 松本 昭彦

委員 飯山 千里

【事務局】 (市長部局)

共創企画部長 西條 敦史

企画課長 橋本 頼孝

スポーツ・文化振興課長 今泉 勝浩

青少年課長 星野 正史

日本遺産活用室長 阿部 正治

新里支所市民生活課長 中島 晃

黒保根支所市民生活課長 青木 秀樹

企画課企画戦略担当係長 曾我 延博

(教育委員会事務局)

教育部長 園田 博宣

教育部参事 渡邊 真宏

総務課長 峯岸 孝徳

学校教育課長 須藤 英隆

教育環境課長 糸井 広江

生涯学習課長 小野里篤史

文化財保護課長 向田 澄枝

図書館長 助川登志子

総務課庶務係 多賀谷篤史

【傍聴者】 1人

【報道機関】 1社

4. 議 題

第3期桐生市教育大綱に基づく取組状況について

5. 議事の大要

(開始：午後3時30分)

○開会 〈司会：教育総務課長〉

○あいさつ

桐生市長 荒木 恵司

皆様、こんにちは。

委員の皆様には大変ご多用中のところ「令和6年度 第1回 桐生市総合教育会議」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

平素からそれぞれのお立場で本市の教育行政につきまして、多大なお力をいただいておりますことに対しても厚く感謝申し上げます。

この「桐生市総合教育会議」では、平成27年7月の設置以降、主に教育大綱の策定や、教育行政における課題、重点的に講ずべき施策などについてご協議いただいております。

今回は「第3期桐生市教育大綱に基づく取組状況について」事務局から説明し、その後、皆様からご意見を賜りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

少しだけ時間をいただきたいのですが、桐生市では少子化・高齢化に伴う人口減少の問題が非常に大きな課題となっております。

将来の町の姿を描きながら中長期的なプランニングを立てて、ダウンサイジングを含めた対策や取組を行っているところではありますが、その大きな突破口の一つが教育だと思っています。

とりわけ、11月9日・10日に開催されます「ミニきりゅう」につきましては、去年は1,000人の子どもたちの参加があり、今回は1,100人の参加を想定していたところ、1,400人の子どもたちの参加をいただくということで、職業体験ブースが不足していることから1,100人に絞ったと聞いております。

同じく11月10日には黒保根学園でオープンスクールがあり、学校教育課長からの話によりますと、希望者が東京から2名、前橋から2名、黒保根以外の桐生市から8名であり、特に東京からの2名につきましては、黒保根への移住を視野に入れた参加だと聞いております。

さらに6月にオープンいたしました、デジタル・クリエイティブ人材の育成拠点「ツクルン桐生」につきましても大変好評をいただいております、多くの子どもたちで賑わいました。

そして人材育成について定評があります東京池袋にあるISI学園につきましても、桐生市内6校の高校から1名ずつの推薦枠をいただくことができました。

その他にも既存の「サイエンスドクター事業」や「未来創生塾」、そして来年4月に開校す

る R 高校、小学生の観光ガイドのスペシャリストを育成する「ジュニアアンバサダー制度」等、桐生独自の教育がたくさんあり、これらを生かして外に発信していくことがこれからの桐生の大きな可能性に繋がると思っております。是非、教育委員会と協議し、教育委員の皆様のご意見をいただきながら、これらを強力に進めていきたいと思っておりますので、お力添えをいただきますようよろしくお願い申し上げます。

○協議・調整事項 〈議長：荒木市長〉

第 3 期桐生市教育大綱に基づく取組状況について

・意見、質疑応答は以下のとおり。

発 言 者	発 言 内 容
荒木市長	次第に従いまして、「3 協議・調整事項」の「第 3 期桐生市教育大綱に基づく取組状況について」事務局から説明をお願いします。
事務局 (教育部長)	今回ご協議いただき、第 3 期桐生市教育大綱についてご説明申し上げます。 令和 5 年度の総合教育会議においてご協議いただき決定した第 3 期桐生市教育大綱につきましては、桐生市の教育・学術・文化の振興に関する総合的な施策について、その目標や根本となる方針を定め、令和 6 年度を初年度として第 3 期桐生市教育大綱の基本理念である桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくりと基本方針の 6 つの施策である学校教育の充実、教育研究の推進、青少年健全育成の推進、生涯学習の推進、芸術・文化の振興、スポーツの振興について現在取り組んでおります。 今回は第 3 期桐生市教育大綱の各施策に関する今年度の取組状況及び事業概要等について構成員の皆様からご意見や今後の方向性についてご意見をいただきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願いいたします。以上です。
荒木市長	ただ今、事務局の説明がありましたが、教育委員の皆様から、ご意見等をお願いいたします。 板橋委員から 順番をお願いいたします。
板橋委員	先ほど市長のお話にもありましたが、桐生市では他市ではできない幼稚園から高校まで一貫した教育が重要であると考えております。市立商業の中高一貫化を含めて桐生市としてのビジョンのお考えをお示してください。 また、子育て世代が移住を決める一つの必要条件として、子どもの教育環境がありますが、桐生市の特色ある教育を核にした子育て世代の移住策について、市の考えをお聞かせください。
学校教育課長	幼稚園から高校に至る一貫した特色のある教育についてご答弁申し上げます。 桐生市では、第 3 期教育大綱の基本方針にありますように、桐生市の豊か

発 言 者	発 言 内 容
	な自然や固有の歴史、文化、人材等の教育資源と地域の特色を生かした桐生市ならではの教育を通して、桐生への愛着や誇りに思う気持ち、夢や志に挑戦するために必要となる力を育み、桐生の発展を牽引する人材や世界を舞台に活躍する人材の育成を目指し、幼・小・中・高等学校で、一貫した取組を進めております。 中でも、群馬大学と連携したサイエンスドクター事業は、プログラミング教育を中心に、幼稚園から中学校まで、発達段階に応じたプログラミングの体験的な授業を展開させていただいており、他市ではできない取組の一つであると自負しております。また、国際理解教育におきましては、ALT や群馬大学の留学生を市内の園・学校へ派遣し、継続して英語に触れる機会や授業の充実を図ることで、英語に親しみ、世界で活躍できる人材の育成に取り組んでおります。 このような地域の教育資源を効果的に組み合わせることで、今後もさらに、幼・小・中・高の一貫した桐生ならではの特色ある教育について検討し、継続して取り組んで参りたいと考えます。 また、桐生市の公立学校におきましては、現在、児童生徒数の減少に伴う学校規模の縮小が喫緊の課題となっており、適正化に向けた検討を進めているところでもあるため、商業高校の中高一貫化の計画は今のところございません。ただ、市立商業高校への学びの継続の視点からも児童生徒に身につけさせたい資質能力を明確にし、中学校との接続、連携を図って参りたいと考えます。 次に特色のある教育を核にした子育て世代の移住策についてご答弁申し上げます。 委員ご指摘のとおり、桐生市が子育て世代に選ばれるためには、教育は重要な要素の一つであると考えます。子育て世代の方々に、桐生市の素晴らしい環境の中で子育てをしたいと考えていただけるよう、豊かな自然や歴史文化、地域人材を生かした感性を育む体験的な教育を推進していくとともに、群馬大学と連携したサイエンスドクター事業や国際理解教育、姉妹都市であるコロンバス市への中学生海外派遣や織物体験事業などの桐生市ならではの取組の充実を図って参りたいと考えます。併せて、子どもたちにしっかりと学力をつけることができるよう、引き続き、研修を通して教師の資質向上を図って参りたいと考えております。
企画課長	特色のある教育を核にした子育て世代の移住策についてご答弁申し上げます。 現在、本市の最重要課題である人口減少問題の対策として、市長が掲げている柱の一つに「桐生独自の教育環境の確立」がございます。 これは、デジタル・クリエイティブ人材の育成拠点「ツクルン桐生」や

発 言 者	発 言 内 容
	子どもだけの仮想のまち「ミニきりゅう」、群馬大学と連携した親子の体験型プログラムである「未来創生塾」、小学生の観光ガイドのスペシャリストを育成する「ジュニアアンバサダー制度」、更には小中一貫校で義務教育学校の「黒保根学園」など、桐生にしかない独自の教育資源を活用し、全国にも類を見ない学園都市、教育都市の実現を目指そうとするものでございます。 特に「ツクルン桐生」につきましては、その運営に群馬大学や桐生大学の学生さん、包括連携協定を締結している ISI 学園東京ビジネス外語カレッジの生徒さん、更には角川ドワンゴ学園の R 校の生徒さんにも関わっていただくことを想定しております。 こうした様々な教育資源の更なる磨き上げを図り、世界に羽ばたく人材を育成するとともに、特色ある保育園から大学進学までをパッケージ化した教育環境を PR することにより、教育に関心のある子育て世代の移住につなげて参りたいと考えております。 以上でございます。
板橋委員	先ほどお話にありました商業高校の一貫化については、すぐに実施することは難しく、高校全部を中高一貫にする必要はないと思いますが、IT に関して資質の高い生徒がいたら、早い段階で例えば商業高校で学べるようなコースを作り、ツクルン桐生と繋げて講師として派遣できるような形の特色ある IT 教育ができるといった、資質の高い子どもをどんどん伸ばせるような制度を作っていけるといいなと思います。 また、先ほどの移住を含めた PR についてですが、むすびすむ桐生ができましたので、そのメンバーから教育の成功例をInstagramで発信して、桐生に住むとこんな教育が受けられるといったことを広めることができたらいいなと思います。是非ご検討いただければと思います。
荒木市長	貴重なご意見ありがとうございました。続きまして、山野委員よりお願いいたします。
山野委員	桐生のまちづくりの基本テーマである感性を育む人づくり、繋がりを生かしたまちづくりに関する基本方針に関して2つ伺います。 1点目は芸術・文化・スポーツ振興の取り組みについて、芸術大使・スポーツ大使を含めた今後の推進計画をどのように考えているかについてお聞かせください。 もう1点は、住民自らの学びを生かしたより良い地域づくりの取組について、学校や地域、その他多様な主体との連携を今後どのように推進していくのかについてお聞かせください。
スポーツ・文化振興課長	芸術・文化・スポーツ振興の取り組みについてですが、現在、芸術大使といたしまして平成29年に山口晃さん、令和6年にスポーツマンシップ

発 言 者	発 言 内 容
	大使といたしまして中村聡宏さんに就任していただいております。山口さんにつきましては、平成30年に景観講演会、令和3年にポスター展を実施していただいております、中村さんにつきましては、大使就任以前からスポーツマンシップについての講演会等を実施していただいております。また、各スポーツ施設の老朽化に対し、陸上競技場をはじめ体育館、今年度には相生テニスコートのオムニ化等の施設整備を実施し、利用者が快適に利用できるよう毎年改修を進めているところです。 今後の芸術文化推進につきましては、今年度、東京芸術大学に対してアートフェスティバル準備経費補助金を交付し、開催時期は未定ですが桐生市内でのアートフェスティバル開催に向け、フォーラム等を予定しております。 スポーツ振興につきましては、老朽化した施設整備を進めるとともに小さい子どもから高齢者まで、一緒に楽しめるボッチャ等の普及を含め各種団体等への支援を継続してまいりたいと考えております。また、球都桐生プロジェクトで野球を中心として推進しておりますが、今後他のスポーツへの波及が図れるよう進めてまいりたいと考えております。 以上です。
生涯学習課長	住民自らの学びを生かしたよりよい地域づくりの取り組みについてご答弁申し上げます。 生涯学習の推進につきましては、公民館を拠点として活躍する各地区の生涯学習推進委員によって地域ごとに特色のある様々な活動を展開していただいております。 公民館は、地域コミュニティの核となる施設として、サークル活動はもとより、自治会をはじめ、地域の各種団体の拠点として活用いただいております。 学校や地域、その他多様な主体との連携の推進につきましては、現在、公民館の文化展等の各事業において、学校や地域の各種団体にも参画いただいております、それぞれの活動への理解を深める機会をすることで、地域の歴史、文化の継承や地域の一体感の醸成にもつながるものと考えております。また、放課後子ども教室においては、令和5年度に市内全小学校・義務教育学校に設置を完了し、地域の皆様に参画いただき、豊かな知識や技術、経験を生かし、様々な活動を展開していただいております。 市としましては、今後も生涯学習推進委員が主体的に活動できるよう支援するとともに、地域の各種団体のほか、産官学金労言士などの地域資源を有効活用し、それらを連携させ、公民館を中心に、住民一人ひとりの「学び」がよりよい地域づくりに繋がるような事業の実施や環境の整備について研究してまいりたいと考えております。

発 言 者	発 言 内 容
	以上です。
山野委員	ありがとうございます。芸術・文化・スポーツに関しては、桐生が培ってきた桐生らしいマーチングや球都桐生等、子どもから大人まで参加できるような事業を実施しており、桐生らしさを大事に実施いただければと思います。 公民館をコミュニティの核ということですが、学校の数が減っている中で公民館はどうなってしまうのか、10年後を考えると不安に近い気持ちになります。新たなコミュニティを創造して進めていただく必要があるかと思います。 具体的な例示をしていただき、ありがとうございます。
荒木市長	貴重なご意見ありがとうございます。続きまして、松本委員よりお願いいたします。
松本委員	地域コミュニティの充実に対する市としての取組についてですが、学校適正化により学校数が減ることが想定され、学校コミュニティの関係で保護者同士の繋がりが減ることが考えられます。また、地域コミュニティをどのように継続させていくのか、という点について考えていく必要があるかと思います。学校のことで言えば、例えばスポーツコミュニティがありますが、部活を外に出すことにより地域とスポーツが繋がるといった事があり、ある意味では大変だと思いますが、チャンスに繋がると思います。 公民館の活動も年齢が限られておりますので、例えば学校の文化活動が地域に広がっていき、公民館に繋がることで、新たなコミュニティができていくのではと思っております。 今後、どのように地域コミュニティを活性化していくのか、という点についてのお考えをお伺いいたします。 また、ICT の関係で、DX について桐生市は色々な取り組みをしておりますが、学校の中でも大切なことだと思ひまして、STEAM 教育といいますが、多様に学んでいかないと社会で通用しないといった事で進められていると思います。その中の一つが DX であり、学校の中では ICT になりますが、それをどのように社会で通用するよう繋げていくかが大きな課題であると思います。DX の取組は桐生にとって武器になるため、学校教育の中でどのように進めていくのかについて考えをお聞かせいただければと思います。
生涯学習課長	地域コミュニティの充実に対する市としての取組に関してお答えさせていただきます。 ご指摘の学校の適正配置による課題等に関しましては、保護者や地域住民等の関係者で構成されている検討委員会において、認識を共有しながら、協議を進めていく必要があるものと考えております。

発 言 者	発 言 内 容
	また、公民館につきましても、ご指摘のとおり、年齢層の偏りが見られることもあります。公民館は地域コミュニティの核となる施設として、サークル活動はもちろんのこと自治会や地域の各種団体の拠点として活用いただいております。その中には子どもたちの育成活動に携わる団体等もございます。 今後、学校の適正配置に向けた協議が進む中で、広域化された中であつても、あらゆる世代が気軽に集える場所や機会の提供が必要であり、そこから世代間交流へと発展し、地域コミュニティが形成されるものと考えます。学校や地域の様々な団体、関係各課とも連携を図りながら、子どもたちが健やかに生き生きと成長していける環境を地域が一体となって作っていけるような方策について研究してまいりたいと考えております。 以上です。
学校教育課長	ICT 教育の充実についてご答弁申し上げます。 令和 2 年度より、コロナ禍の影響によって GIGA スクール構想が急速に進められ、現在、本市におきましても、各校の授業において、デジタル端末の積極的な活用が図られております。本年度行われました全国学力・学習状況調査の学校質問紙や児童生徒質問紙調査では、タブレット PC を授業で十分に活用していること、そのための研修が教育研究所や各学校でも積極的に行われているという結果が表れております。 また、商業高校におきましても、一人 1 台のタブレット PC を活用した学習や、普通教室に常設されているプロジェクターを使用した授業など、共通科目、商業科目すべての授業で、ICT 機器の活用が図られており、生徒の学力向上や情報スキル、メディアリテラシーをしっかりと身につけさせることで、急速に進む情報化社会に適応できる人材を育成しております。 商業高校における地域企業などとの連携につきましては、2 年生で実施するインターンシップや企業連携プロジェクトへの参加などを実施しており、これらの体験を通して、生徒たちは地元企業の経営理念や事業内容、社会的役割などを理解するとともに、地元企業に興味・関心を持ち、地元の企業で活躍したいという気持ちを高めております。今後も地域企業と連携した総合的な学びをさらに充実させていけるように努めていきたいと考えております。 委員ご指摘のとおり、デジタル化が急速に進む現代社会において、私たちの生活には ICT に関わる知識や技能が必要不可欠となっており、これからの時代を担う子どもたちにしっかりと身につけさせることが大切であると考えます。 今後も、ICT 環境、機器の整備と ICT 機器の効果的な活用についての研究を進め、「個別最適な学び」「協働的な学び」と併せて ICT 教育の充実を図っていききたいと考えます。また、ICT に関心のある子どもたちが、更に先進的

発 言 者	発 言 内 容
	かつ高度な ICT の技術に触れることができるよう、新たに開設したツクルン桐生を紹介するなどし、デジタルクリエイティブ人材の育成にも寄与していきたいと考えます。 以上でございます。
松本委員	色々な取組をされていることは承知しておりますが、地域コミュニティの関係で、学校は色々な文化発表会があり、公民館でも色々な文化発表会がありますので、同じことをやっているのであれば、それらをマッチする機会があれば世代間の交流ができるのではと感じました。 ICT の関係ではツクルン桐生等、色々な取組がありますが、一部の子どもたちだけではなく、全ての子どもたちにどのようにデジタルを繋げていくのかが重要なのではないかと感じました。
荒木市長	貴重なご意見ありがとうございます。続きまして、飯山委員よりお願いいたします。
飯山委員	学校適正配置の推進についてですが、教育委員会以外の課にも関係してくると思いますが、例えば子育て支援課であれば学童クラブの充実をどのようにしていくのか、都市計画課ではどのように都市計画を考えているのか、避難場所について防災・危機管理課はどのように考えているのか、青少年課では学校や家庭以外の第三の居場所についてフォローする体制をどのように作っていくのか等について、準備を進めているかどうかお伺いいたします。 図書館の施設充実についてですが、最近の傾向としては、図書館の位置付けとしては、単に図書、文化や歴史、社会教育に関係するだけでなく、カフェといったコミュニティや都市計画、まちづくりにおける自治体のスタンスが表出する施設と捉えられています。これからの図書館の在り方についてのビジョンを教えてください。
教育環境課長	学校適正配置の推進についてご答弁申し上げます。 学校の適正配置に伴う他部署との連携とその検討状況についてですが、委員ご指摘のとおり、地域にとって、小学校や中学校は、単なる教育施設ではなく、防災拠点としての役割や、地域における文化・スポーツの活動拠点としての側面を持っており、教育委員会以外の部署の各種事業の拠点としても活用されております。また、市の各種計画の中には、学校規模や学校配置の適正化に関連性がある計画もありますので、必要に応じて、関係部局との調整を行いながら、取組を進める必要があると考えております。 現在、9つの中学校区において検討委員会を開催し、原則2つ以上の中学校区検討委員会で構成する「地域協議会」の設置について、各検討委員会の方向性を協議している段階であり、具体的な統合の組合せや、新たな学校の設置場所は決まっていない状況にあります。 このため、教育委員会以外の関係部局において、具体的な調査や検討準備

発 言 者	発 言 内 容
	に着手することは困難な状況にあります。教育環境課では、各関係部局に対し、随時、検討委員会におけるご意見やご要望について情報の共有を図り、学校の適正配置を円滑に進めることができるよう、努めているところです。 今後も、教育委員会と市長部局が緊密に連携を図りながら、子どもたちのことを第一に考え、より良い教育環境や教育条件の整備に取り組んでまいりたいと考えております。 以上です。
図書館長	桐生市としてのビジョンについてですが、桐生市では、20年、30年先の未来を見据えた持続可能な発展を目指し、中長期的な視点に立つて総合的かつ計画的にまちづくりを進めるため、まちづくりの指針なるものとして「桐生市第六次総合計画」を策定し、様々な施策を実施しています。図書館につきましては、専門性や特色を生かした多様な世代に対応した学習機会の提供を図るべく、施設の充実を図っていくこととし、桐生市が持続的に発展していけるまちづくりを進める上での、重要な要素の一つと考えています。 今後につきましては、図書館の整備に関する基本計画の構築をするために、令和8年度中の（仮称）新図書館整備基本構想の策定を目指しています。令和5年度から継続的に桐生市立図書館協議会にてご協議いただいていた「図書館アンケート」を10月9日（水）から11月8日（金）まで期間で実施しております。その後は、早急にアンケート結果を取りまとめ、アンケート結果の分析や図書館のあり方について、引き続き図書館協議会にてご意見を伺ってまいります。 令和7年度におきましては、市民ワークショップや関係団体と意見交換を実施し、基本構想（案）につきまして意見集約を行い、教育委員会内に（仮称）ではありますが、基本構想策定準備委員会を設置したいと考えております。準備委員会においてフィードバックしながら、（仮称）新図書館整備基本構想（案）を作成していきたいと考えております。 また、新図書館の建て替えに至った場合に長期の休館ということも考えられますので、その代替案として電子図書館サービスの導入につきましても検討を進めていきたいと考えております。 以上です。
飯山委員	学校適正配置につきましては、進み出したら早いと思われしますので、各課も早めに検討を進めて、どのようにコンパクト化していくか等について準備していただければと思います。 図書館については具体的なスケジュールを教えてくださいましたが、楽しみにしている方も多くいると思いますので、早めにアナウンスしていただくと意見が集まりやすいと思います。
教育長	今年度は、第3期桐生市教育大綱の対象期間である4年間のうちの1年

発 言 者	発 言 内 容
	目です。教育委員会としましても、桐生の未来を担い、世界に羽ばたく人づくりという教育大綱に基づき、これからも桐生市の教育を進めてまいりたいと考えております。 そして特に、児童生徒数の減少が続く中、小中学校の適正配置について、各中学校区の検討委員会で話し合いを進めていただいております。子どもたちが学校で多くの仲間と学びあいができるようにするために、市内のどこに住んでいても安心して笑顔で通学できる学校を今後創造してまいりたいと思います。そして、特色ある教育をさらに進めてまいりたいと思います。よろしくお願いいたします。
荒木市長	ありがとうございました。 ご意見も出尽くしたようなので、本日協議させていただいた内容を踏まえて、他の関係部局、関係機関とも調整を図りながら、しっかりと取り組んでいきたいと考えております。 それでは、本日予定しておりました議事は、以上となりますので、進行を事務局にお返しします。
教育総務課長	ありがとうございました。 次第の「4. その他」といたしまして、最後に事務局より、次回の会議開催に関しましてご連絡をさせていただきます。 今年度の次回会議開催につきましては未定でございますが、協議事項が生じた場合には、随時、日程等の調整をさせていただきたいと存じますので、引き続きご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。 以上をもちまして、令和6年度第1回桐生市総合教育会議を閉会いたします。ご協力ありがとうございました。

○閉会 〈司会：教育総務課長〉

（終了：午後4時14分）